

2011 年度版

エコアクション 21

環 境 活 動 レ ポ ー ト



自 2010年10月 1日
至 2011年 9月30日
発行日 2011年10月 1日

ご挨拶

当社は創業以来、より豊かな社会づくりの一翼を担いたいとする企業理念のもとに、製品の品質化をはじめ、より優れた技術力、未来を先駆ける創造力の研鑽に取り組んできました。そして、永年に亘り培った独自の技術とあらゆる可能性を追及する創造力を駆使し、ダイナミックに行動してまいりました。これからも、常に時流に先じた新製品の開発を行い企業品質の向上につとめ、未来社会の調和ある繁栄に貢献できる企業であり続けたいと考えております。

株式会社 北菱
代表取締役 谷口 寛

目 次

I. 環境方針	P-2
II. 事業の概要	P-3
III. 環境負荷の実績と環境目標	P-4
IV. 2011 年度の環境活動計画の内容	P-6
V. 環境保全活動の取組結果と代表者による評価	P-9
VI. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無	P-11

I. 環 境 方 針

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化や、今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題との認識にたち、建設機械部品の製造及び、各種車両・環境機器のアタッチメント等の開発・製造・販売等の事業活動における環境負荷の低減を図るために、全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

〈環境保全への行動指針〉

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
 - ・ 電力（工場、事務所）
 - ・ 自動車燃料（営業車、トラック、フォークリフト）
 - ② 廃棄物の削減及び再資源化の推進
 - ・ 一般廃棄物（可燃ごみ）
 - ・ 産業廃棄物（金属屑、廃プラ、廃油）
 - ③ 排水量の削減
 - ④ 環境に配慮した製品・サービスの開発・販売促進
 - ⑤ 化学物質取扱いの徹底と排出量の削減
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。
3. この方針を全社員に周知するとともに、環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

2007年12月1日制定

株式会社 北菱

代表取締役社長 谷口 寛

Ⅱ. 事業の概要

1. 会社概要

会社名	株式会社 北菱
代表者	代表取締役社長 谷口 寛
所在地	石川県小松市長田町イ 1 8
設 立	昭和 25 年 9 月
資 本 金	4, 006 万円
事業内容 (認証登録範囲)	建設機械部品・産業用機械部品の加工製造。 各種車両・環境機械のアタッチメント及びメンテナンスロボットの設計・開発、製造及び修理。車検業務。
事業規模	従業員 109 名
沿革	(平成 21 年 1 月現在)

昭和 25 年 10 月	自動車販売修理業として会社設立
昭和 37 年 11 月	建設機械を取扱う。北陸三県で販売・アフターサービス
昭和 48 年 1 月	製造部門を新設。建設機械の重要保安部品の生産を開始
昭和 59 年 4 月	産機部門で下水道維持管理のオリジナルロボットを商品化し、全国販売を開始
昭和 62 年 7 月	製造部・特装部・産機部の 3 部門を柱に技術集団を形成
平成 13 年 11 月	I S O 9 0 0 1 の認証を取得
平成 16 年 7 月	車検業務 「北陸信越運輸局指定」を取得
平成 19 年 2 月	製造事業部に油圧機器加工部門を新設

2. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者	代表取締役社長 谷口 寛
環境管理責任者	製造事業部 次長 谷口 直樹
環境管理担当者	総 務 部 総務課係長 越田 浩彰
連絡先	TEL 0761-21-3311 FAX 0761-21-3369

Ⅲ、環境負荷の実績と環境目標

当社における 2006 年度・2007 年度・2008 年度の環境負荷実績を把握し 2009 年度から 2011 年度までの目標を定め活動を開始した。

1. 環境負荷の状況 (9 月締め)

※電力の二酸化炭素排出係数は 0.555kg-CO₂/kWh

費 目		2006 年度 実績	2007 年度 実績	2008 年度 実績 (基礎数値)
二酸化炭素 排出量	kg - CO ₂	1,176,132	1,270,852	1,510,946
	kg - CO ₂ ／生産高	330.8	329.2	432.7
廃棄物排出量 (含金属屑)	kg	118,400	178,100	311,700
	生産高当たり kg／百万円	33.3	46.1	89.3
水使用量	m ³	5,047	4,603	2,484
	人員当たり m ³ ／人	70.1	54.8	28.2

2008 年度の廃棄物排出量が突出して多いのは、同年度より新工場が稼働した為で、そこでのテスト運転中に生じた鉄屑のスクラップが排出されたことによる。

2. 中期環境目標

環境方針		中期目標
1-1	生産高当たりの温暖化ガス排出量を削減します。	生産高当たりガス排出量 基準値に対して 2011 年度 94%
1-2	作業のムダトリ及び生産性の向上によりエネルギー使用量を削減します。	生産高当たりエネルギー使用量 基準値に対して 2011 年度 94%
2	水資源の節水に努めます。	上水の総使用量 基準値に対して 2011 年度 94%
3	作業のムダトリ及び生産性の向上により化学物質排出量を削減します。	生産高当たり化学物質排出量 基準値に対して 2011 年度 94%
4	使用原材料の省資源及び廃棄物の 3R(減量、再使用、再生利用)を推進します。	生産高当たりの廃棄物排出量 基準値に対して 2011 年度 85% 廃棄物の再資源化率 データ分析後設定

年度別の改善の着眼点

環境方針	2009年度目標 及び着眼点	実施	検討	2010年度目標 及び着眼点	実施	検討	2011年度目標 及び着眼点	実施	検討
1-1. 生産高当たりの温暖化ガス排出量を削減します。	生産高当たりガス排出量を基準年度比 98%にする ・エコドライブの推進 ・事務所の電力使用量減 ・省エネ設備調査	●	●	生産高当たりガス排出量を基準年度比 96%にする ・エコドライブの推進 ・省エネ設備の起案	●	●	生産高当たりガス排出量を基準年度比 94%にする ・省エネ設備の導入 ・省エネ車への段階的切り替え	●	●
1-2. 作業のムダトリ及び生産性の向上によりエネルギー使用量を削減します。	生産高当たりエネルギー使用量を基準年度比 98%にする ・5S活動の推進 ・1ヶ流し生産 ・照明の間引き	●	●	生産高当たりエネルギー使用量を基準年度比 96%にする ・5S活動の推進	●		生産高当たりエネルギー使用量を基準年度比 94%にする		
2. 水資源の節水に努めます。	上水の総使用量を基準年度比 98%にする ・上水の使い方の改善 ・節水・こまめにとめる等 ・トイレの節水	●	●	上水の総使用量を基準年度比 96%にする ・地下水の利用拡大 ・雨水の利用方法の検討	●	●	上水の総使用量を基準年度比 94%にする ・雨水の利用拡大	●	
3. 作業のムダトリ及び生産性の向上により化学物質排出量を削減します。	生産高当たり化学物質排出量を基準年度比 98%にする ・作業標準の制定による塗料使用量の削減	●		生産高当たり化学物質排出量を基準年度比 96%にする			生産高当たり化学物質排出量を基準年度比 94%にする		
4. 使用原材料の省資源及び廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)を推進します。	生産高当たり廃棄物最終処分量を基準年度比 95%にする ・省資源改善案の立案 ・残材の再利用 ・再資源化戦略の設定 ・コピー用紙のリサイクル	●	●	生産高当たり廃棄物最終処分量を基準年度比 90%にする ・前年度改善案の実施 ・板取歩留まりの改善 ・再資源化率の目標設定 ・ペーパーレス化の研究	●	●	生産高当たり廃棄物最終処分量を基準年度比 85%にする ・前年度改善案の実施 ・板取歩留まりの改善 ・手直し不良の低減 ・再資源化品目の拡大 ・生ゴミのボカ方法の調査	●	●

IV. 2011 年度の環境活動計画の内容

大項目	具体的な取り組み内容	担当部門		
		製造 事業部	車両 事業部	事務 部門
1-1 電力の二酸化炭素排出量を削減する	1 室内不在時、昼休み時の消灯励行 2 待機電力の削減 3 冷暖房の適正温度の厳守 4 使用していない機器の電源 OFF 5 段取り改善及び、ネック設備の稼働率向上 6 5S 活動によるムダとり 7 夏場におけるクールビズ実施	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○
1-2 燃料の二酸化炭素排出量を削減する	1. エコドライブの実施（教育の実施） ① .DVD による運転テクニック講習 2. 省エネ車を導入する	○ ○ フォーク リフト	○ ○ 車	○ ○ 車
1-3 灯油の二酸化炭素排出量を削減する	1. 空調設備等の運転方法、設定温度	○		
2 上水の総使用量を削減する	1 手洗い等は無駄のないように努める 2 配管などの水漏れ点検・補修 3 ドライ加工化	○ ○	○ ○	○
3 化学物質排出量を削減する	1 塗料、シンナー希釈率の管理 2 なるべく酸性・アルカリ性のものは使用しない 3 調色時は計量カップを使用する	○ ○	○	
4 廃棄物を再利用する	1 コピー用紙の裏面の再利用 2 ダンボール等のリサイクル	○ ○	○ ○	○

活動の写真

活動 1

- ・ 消火訓練実施



(解説文)

消防署より指導員を招き、火災時の対応及び消火栓・消火器の正しい扱い方の指導を受け、また、実際に消火栓・消火器の使用訓練を実施し、緊急時の対応力向上を図りました。

活動 2

- ・ AED 設置と
取扱い訓練実施



(解説文)

緊急時対応のため AED を設置しました。また、社員に対し、メーカー業者による AED 使用教育を実施頂き、取扱い訓練を行いました。

活動 3

- ・ 節電&エコ
活動実施



(解説文)

各事務所電灯の間引き運用、夏場のエアコン設定温度管理、緑のカーテン作成による室内温度上昇軽減、事務機器省電力モード管理等、節電&エコ活動に取り組んでいます。

活動 4

- ・環境配慮型の
自社製品に
新商品開発



(解説文)

下水道管維持管理の為の遠隔操作ロボットに新商品を開発・販売することで、今まで以上に環境改善の実現を可能にし、更なる環境への貢献を図る。

トピックス



(解説文)

市の「里親制度 美化ピカ隊」として今年も道路清掃ボランティア作戦を実施することで地域社会に貢献しました。

V. 環境保全活動の取組結果の評価

(2011年9月実施)

1. 環境目標の達成見込みの評価

2010年10月～2011年9月における期間目標の達成状況は下記のとおりである。

環境負荷項目	指標	2010年 10月～ 12月	2011年 1月～ 3月	2011年 4月～ 6月	2011年 7月～ 9月	年度 合計	
電力の二酸化炭素排出量	総量の実績 (kg-CO ₂)	270,010	294,239	270,995	301,298	1,136,542	
	kg - CO ₂ ／生産高 百万円	基礎数値	313.7	313.7	313.7	313.7	313.7
		目標	294.9	294.9	294.9	294.9	294.9
		実績	427.9	374.8	380.1	310.6	366.7
		評価	×	×	×	×	×
燃料の二酸化炭素排出量	総量の実績 (kg-CO ₂)	31,973	28,950	26,527	35,712	123,162	
	kg - CO ₂ ／生産高 百万円	基礎数値	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0
		目標	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7
		実績	50.7	36.9	37.2	36.8	39.7
		評価	×	×	×	×	×
灯油の二酸化炭素排出量	総量の実績 (kg-CO ₂)	17,488	52,076	14,760	35,047	119,371	
	kg-CO ₂ ／生産高 百万円	基礎数値	45.5	45.5	45.5	45.5	45.5
		目標	42.8	42.8	42.8	42.8	42.8
		実績	27.7	66.3	20.7	36.1	38.5
		評価	○	×	○	○	○
二酸化炭素排出量総計 (kg-CO ₂)	基礎数値	377,737	377,737	377,737	377,737	1,510,946	
	実績	320,409	376,203	313,220	372,995	1,382,827	
廃棄物 排出量	総量の実績 (kg)	24,570	26,494	33,955	55,981	141,000	
	生産高あたり kg／百万円	目標	75.9	75.9	75.9	75.9	75.9
		実績	38.9	33.8	47.6	57.7	45.5
		評価	○	○	○	○	○
化学物質 排出量等	生産高あたり t／生産高 百万円	基礎数値	0.0048	0.0048	0.0048	0.0048	0.0048
		目標	0.0045	0.0045	0.0045	0.0045	0.0045
		実績	0.0047	0.0047	0.0047	0.0047	0.0047
		評価	×	×	×	×	×

水使用量	総量の実績 (m ³)		541	591	556	648	2,336
	m ³ /人	目標	6.7	6.7	6.7	6.7	26.8
		実績	5.0	5.4	5.1	5.9	21.4
		評価	○	○	○	○	○

2. 各項目評価コメント

×【二酸化炭酸排出量について】

中期目標に対して年間を通じ達成することができなかった。これは量産品が減少する中、一品物や試作品の受注により生産効率が上がらなかったこと、また、量産品についてもコスト低減の要請があり原価高になったことが一番の要因だと思われる。ただ昨年と比較すると通期で減少しており一定の効果は得られたと思う。

今後は各工程ごとの改善等、見直しを図りながら効率の良い生産を行い、排出量の低減に努めたい。

○【産業廃棄物排出量について】

昨年に引き続き通期で目標を達成することができた。

これはゴミの分別に対する項目と集計方法の見直しにより、精度向上を図ったことと、それに伴い社員の意識向上を図ったこと、日常朝礼等で喚起したことによる結果だと思われる。

今後はこれまでの集計結果を基にした根拠のある目標を設定し達成できるよう、更にゴミの排出量の低減に努めたい。

×【化学物質排出量について】

昨年と比較すると減少してはいるものの、目標を達成することが出来なかった。

ただ期中に静電塗装の運用、見直しを行ったことである程度の効果は得られていると感じる。

今後も更なる改善や無駄の排除を行い、排出量削減に努めたい。

○【水使用量について】

年間を通して目標を達成することができた。しかしながら昨年と比較すると増加しており十分な結果を得ることができなかった。今後も益々、社員へ節水意識の喚起を行ない、水資源の低減に取り組むたい。

3. 実施状況の評価

内部監査を実施し、弊社の環境マネジメントシステムが機能しているかどうかを確認しました。その結果を記録に残し、是正事項は対策されたことを確認し、今後の継続的改善につなげていきたい。

各部門の活動計画に対する実施状況を定期的にチェックリストにて確認し、評価している。これにより進捗管理し目標達成に繋げる。

今回の総評として、全体的にルール通り運用実施されており、問題は無かったが、内部監査に於いて、いくつか指摘事項が挙げられましたので、是正をする必要がありました。

4. 代表者による全体の評価

環境マニュアルに基づき運用の定着が見られてはいるが、社員全体的にマンネリの傾向も見られる。

今後、全社員に対してエコに対する意識を更に向上させるための奮起・工夫を実行し、結果の分析による継続改善の徹底を行うこと。

製造事業部については、環境改善はコスト改善であることを周知してほしい。また、車両事業部では顧客・地域との環境コミュニケーションを強化し、社会のニーズを先取りした環境配慮型製品・サービスを開発し売上に寄与してほしい。

2011年11月 代表取締役 谷口 寛

VI. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 当社に適用となる環境法規制など

	法的要求事項等の名称	適用施設 業務等	法的要求事項の内容及び基準
規 制	水質汚濁防止法	貯油施設 分離槽 塗装工程 整備・車検場	事故により貯油施設より油類を流出させた場合 ・速やかな回収 ・知事への届け出
	騒音規制法	油圧プレス、パワー プレス、ショットブ ラスト、コンプレッ サー	規制区域外に該当
	振動規制法	油圧プレス、パワー プレス、コンプレッ サー	規制区域外に該当
	消防法	油脂庫	少量危険物貯蔵所の届出
	小松市消防条例	油・シンナー等屋内 保管場所	保管量の規制 ・第一石油類 64L以内 ・第二石油類 416L以内
	廃棄物処理法	産廃 廃プラ・廃木材 リサイクル品 廃金属・廃油	産業廃棄物保管基準の順守 産業廃棄物の収集、処理委託基準の順守 産業廃棄物管理票による管理 (発行/返却確認/報告/5年間保管) リサイクル品の適正処理契約
	PCB 特別処理措置 法	廃コンデンサー	市役所への届け出 2028年までに処分
	PRTR 法	塗料 (キシレン)	年1トン以上の場合、保管量・移動量・排 出量を集計、県へ届け出
	労働安全衛生法 ・粉塵障害予防則 ・有機溶剤障害予 防則	溶接工場 塗装工場	溶接ヒューム・ショット換気装置設置 作業主任者設置 排気調査、有機溶剤調査、特定健康診断 MSDSの掲示
同 意 事 項	ELV 指令	N社向け製品	鉛、水銀、六価クロムを含有しないこと
	農業組合への申し 合わせ	工場横の農業用水	有毒物・有機物(油等)を流さない。 周辺の草刈
	小松市環境部会申 し合わせ	梯川	梯川の定期的清掃活動への参画

顧客からの要望事項		N社	環境調査内容を定期的に提出
		F社	エコ塗料を推進
		N社	梱包材にダンボールを使用しない

2. 環境法規制などの順守

当社に適用となる環境法規制などについて、年 1 回、推進事務局担当者が順守状況を確認しています。

環境関連法規などへの違反はありません。

なお、関係当局よりの違反、訴訟などの指摘も過去 3 年間ありません。